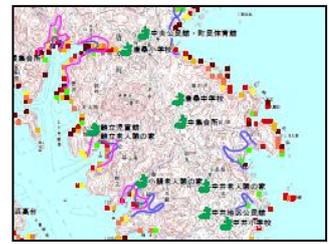
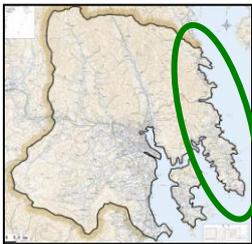


モデル事業名	地域の自然・災害・文化を伝える「語り部～つなぎ手～担い手」育成事業
活動団体名	気仙沼市・唐桑町観光協会・唐桑町自治会連絡協議会
ホームページ	気仙沼市 http://www.city.kesenuma.lg.jp/ 唐桑町観光協会 http://www.karakuwa.com/
所属/ 担当者名	気仙沼市 総務部 危機管理課 防災情報係 主査 鈴木秀光
連絡先	電話番号：0226-22-6600(内線 262) Eメール：kikikanri@city.kesenuma.lg.jp
活動地域	気仙沼市 唐桑地域

● 活動地域の概要

- ・高齢化率：H14年3月 2,337人(26.56%) → H17年3月 2,432人(28.91%) → H20年3月 2,548人(31.62%)
- ・人口動向(国勢調査)：S60年 10,096人 → H7年 9,277人 → H17年 8,103人
- ・観光客数(唐桑半島ビジターセンター)：H元年度 56,252人 → H10年度 32,155人 → H19年度 13,145人
- ・想定津波：地域における最高津波高 8.7m(参照：宮城県第三次被害想定調査)



【位置図：気仙沼市唐桑地域】 【景勝地：巨釜・折石】 【過去の津波被災状況：昭和8年】 【津波浸水想定区域：宮城県調査】

● 活動地域の課題

これまで基幹産業としてきた観光客の減少や水産業の衰退に伴い、人口は減少傾向にあるとともに、高齢化率も約32%に達するなど、コミュニティの活力低下が大きな課題となっている。

また、当地域は過去 明治三陸・昭和三陸・チリ津波によって大きな被害を受けており、また近い将来非常に高い確率で発生すると発表されている宮城県沖地震とそれに伴う津波によつての被害が懸念されている。

● 活動の内容

・平成20年度

- ・「地域資源発掘調査アンケート」
唐桑地域全世帯(2,371世帯)に対する意識調査アンケートの実施
- ・地域住民による「自然・災害・文化の伝承活動」
語り部を行ってもよいという方の調査
- ・イベント
自然・災害・文化に関する語り部活動や、体験型の防災学習を実施
- ・「唐桑コミュニティ創生シンポジウム」の開催
風土に根付く文化や、災害文化の伝承についての講演等を実施



語り部とイベントの状況

・平成21年度

- ・イベント(夏期)
趣向を凝らした教材や、空き缶炊飯等の体験型のイベントを実施
- ・唐桑地域への来訪者に対する意識調査アンケートの実施
観光客が求めているものや、今後の活性化に向けた意識調査を実施
- ・「語り部」としての具体的な活動実施
デジタル語り部として、記録に残しいつでも見られるように対応
- ・イベント(冬期)
語り部さんからの直接のお話。防災カルタ大会など楽しみながら学べるイベントを実施
- ・「防災とまちづくりシンポジウム」の開催(予定：2月13日)
“防災”によるまちづくり・地域づくりをテーマとしたシンポジウムを開催



夏期イベント(空き缶炊飯)

● 活動の成果

・平成20年度

- ・地域資源発掘調査アンケートの実施
回答割合が89%（実質）と非常に高い回答率。過去に被害の大きかった地区ほど災害伝承が高いことや、自然に対し地域住民が強い誇りを持っていることが窺えた。
- ・地域住民による自然・災害・文化の伝承の実施
自然・災害・文化を伝えるための「語り部」として取り組んでも良いという方への説明等を行い、地域の誇りに関する涵養が図られた。
- ・イベントの実施
語り部さんから子ども達への地域の自然・災害・文化についてのお話しをしてもらい、体験型や観光キャラクターを用いた防災講座の実施など、子どもにも保護者にも楽しみながら防災について学んでいただけるとともに、展示の体制を整備した。
この後、防災研修を目的として訪れる観光客もいらした。
- ・唐桑コミュニティ創生シンポジウムの実施
地域に根ざす文化の紹介、及び防災講演等を通じて防災意識の高揚と、日頃の備えの重要性を訴え、地域防災力の向上に努めた。



シンポジウムの状況

・平成21年度

- ・イベント（夏期）
他校の生徒や、地域住民などとの交流を図る機会にもなっている。
空き缶炊飯では助け合いや、他者への配慮の気持ちも持てたようだ。
- ・唐桑地域への来訪者に対する意識調査アンケートの実施
自然観察や語り部の話を聞くなどの体験について、観光客に対して満足度を提供することができる内容であることがわかった。
- ・「語り部」としての具体的な活動実施
唐桑地域を訪れるコンテンツの発信として、観光協会とともに市でも観光・防災の両分野からの情報発信を模索中。
- ・イベント（冬期）
子どもや保護者がお年寄りから被災経験を聞くことで、地域の歴史を伝承されると共に、語り部さんにもやりがいを感じて頂けたようである。
また防災研修メニューとしての整備も図られた。
- ・シンポジウムの開催（予定）
単に防災意識を高めるだけではなく、地域のあり方、他者へのいたわり、助け合いなどの大切さについて感じて頂ける内容となるように準備中。



語り部さんのお話



防災カルタ大会



デジタル語り部

● 今後の課題及び展望

・課題

当地域において、地域への愛着や思い入れは強く、次の世代に残したい・伝えていきたいという気持ちが窺えるが、もう一歩を踏み出すためには、何らかのきっかけが必要な状況にある。

事業への取り組みを通じて、参加された方々には世代間での伝承、交流への貢献に楽しみ・やりがい等を感じて頂けたと思っているが、地域活性化のためには一層の周知や啓発の取り組みが必要と感じる。

・展望

一連の取り組みによって、防災研修が行える体制や地域の方々の参加について行ってきたことから、より他地域からの来訪者の増加を図り、地域住民との交流機会等を設けることによって「地域活性化」が図られるよう各関係機関・団体と連携しての周知の取り組みを展開していきたいと考える。